

草の根から世界へ! ポッドキャストが社会を変える

CGM(消費者発信メディア)の登場により、企業が運営するメディアのみならず、個人が世界規模の社会貢献活動を実現しつつある。ここでは、米国と日本でCGMの研究をしつつ、自らもポッドキャストで社会貢献活動に取り組む筆者がCGMと社会貢献の親和性について分析する。

米

国では企業やメディアが主導する社会貢献活動が日本に比べはるかに進んでいる。これにより、個人レベルでもボランティアが教育の環境として浸透しており、社会貢献活動に対する理解は深いといえるだろう。実際に、プログラマーやポッドキャスト、動画などのCGM(消費者発信メディア)を使って意見を発信している個人も多く、その活動がマンネリに取り上げられる機会も多数、見受けられる。

それでは、実際にCGMを利用した社会貢献活動の事例について見てみよう。

テレビ番組制作者が提案 永續可能なライフスタイル

テレビ番組の制作者であるRyanne Hodson-Jay Dedman(リヤンヌ・デオプロク)「Ryan Is Hungry」は2004年11月に開設された。環境に配慮した技術の開発者や活動家を中心にインタビュウを行い、永續可能サステナビリティ(な)なライフスタイルを提案している。

例えば捨てられたコンピュータを蘇らせ、持たざる人々に与える活動をはじめ、カリフォルニア州のCO₂削減に

貢献している団体「ACCRC」(Alameda County Computer Resource Center)の創始者James Burgett(ジェイムズ・バーゲット)もしている。彼はCNNにもその活動を称えられた人物だ。

このほか、学生向けに環境問題への関心を高める活動をする「Indsay E-assess」など、環境改善に携わる人々へのインタビュウを動画やテキストで配信している。

このブログを運営する2人はテレビ局で番組制作に携わりつつも、「本当に言いたいこと」を伝えるためにブログを始める。それぞれ『Secrets of Videoblogging』、『Videoblogging』といふ本を出版するなど、ビデオブログの面白さについても普及活動を続けてきた。

今年3月に米国内で開催されたインターテインメントやメディアの祭典「SXSW」(サウスバイサウスウエスト)では、「ビデオブログが世界を変える」とのテーマで講演も行った。また、ビデオブログを開設する方法をネット上でも解説している。

目にも楽しい動画で伝える 環境にやさしいレシピ

食と環境にまつわるライフスタイルを

提供する「Festhopian」はサステナビリティ、環境、食事などにに関する情報を動画ポッドキャストで配信するブログだ。

ホストは料理を得意とする「Instagram」のTanja Andrews、Oscar Grimmがディレクターを務めている。彼らの目的は、米国から環境を改善するメッセージを発信することで、あらゆる職業に就く人々に環境改善の活動に参加してもらうことだ。

主な番組内容は、肉や魚を使わないベジタリアン向け料理のレシピを中心に、周辺の環境問題も取り上げる。例えば、菜食主義者向けのアイスクリームを取り上げたレシピや動画を公開するなど、ユークレインにも楽しい内容が満載だ。

音楽配信の売り上げ額を フィリッパの孤児に寄付

寄付活動にポッドキャストを使うのも有効な手段だ。情報サイト「ポッドキャストジャーナル」(<http://podcast-journal.net/>)によるプロジェクト「ネオワールド」(<http://neo-world.jp/>)もその一つ。ネオワールドでは、「ポッドキャストで次世代に貢献する」をテーマに活動している。



編集長たちが仕掛ける 「ドネーション」って何？



<http://freshtopia.net/vlog/>
エコロジストによるブログ「Freshtopia.net」では、肉や魚を使わないレシピや、関連する環境問題を公開。写真はベジタリアンのためのアイスクリームのレシピ。



<http://ryanishungry.com/>
テレビ番組制作者であるRyanne HodsonとJay Dedmanが永続可能なライフスタイルを提案するブログ「Ryan Is Hungry」。

オリジナル楽曲を製作し、アップルストアでライブを行ったほか、昨年末に音楽配信サイト「iTunes Music Store」から『neo-world』というアルバムを全世界に向けて発売。今夏までの売り上げは、フィリピンの孤児院の教育を支援する団体「パフサイヨ」に寄付する。筆者自身も現在、この活動に参加している。

草の根から世界規模へ CGMで社会貢献が広がる

以上の事例からも分かるように、CGMと呼ばれるメディアは、社会貢献活動との親和性が高いものといえる。なぜなら、社会貢献は一方的な情報発信や主張によつて行われるものではなく、いかに消費者を巻き込み、共感を得て、実際の行動に結びつけるかがカギであるからだ。

もちろん匿名性の強さ、情報への信頼度という意味でネットはマスに劣ると見られる部分もある。しかし現在はブログだけでなく、ポッドキャスト、動画配信といった手段もある。特にポッドキャストは社会貢献を促進させる「コミュニケーションツール」として、もつと活用の可能性が広がっているように思う。

筆者自身も「昨年の秋、地球の温暖化阻止のために世界各国で講演をしている東京大学生産技術研究所の山本良一教授から話を聞き、ポッドキャストの活用を思い立った。

山本教授は、「ボランティアや募金活動に欠けているものがある。それは現地の人がいかにその活動により救われているかを伝えることだ」と話している。

この意見をもとに「ポッドキャストニングで地球を救う」をコンセプトとしたエコや募金について考える番組を作るに至った。山本教授の著書の一部を紹介したり、海外のボランティア団体の活動の様子を、現地のインタビューも交えて音声にて配信した。

今回、冒頭で紹介している「Ryan Is Hungry」のブロガーらが「メディアブログが世界を変える」と主張するよつに、CGMは非常に魅力的なツールである。個人の表現手段が多様化したことで、これまで草の根レベルでしかなかった社会貢献活動も、世界規模の活動へと、一気に翼を広げることができるようだ。

もちろん個人のみならず、企業の社会貢献活動への活用方法も、模索の可能性が大いに考えられるのではないだろうか。



田島 由香子 (たじま・ゆかこ) 氏

大学でジャーナリズムを専攻。在学中、海外留学にてウェブデザインを学ぶ。卒業後、IT関連会社を経て現在はポッドキャストのサービスを提供するボイスバンク社に所属。シリコンバレーと日本を往復しながら米国のITに関するフィールドワークを行っている。フィリピンの孤児院を支援するパフサイヨ団体所属。「ポッドキャストで次世代を考える」ネオワールドにも所属。ポッドキャストの普及とともに、社会貢献のメディアとしての可能性を追求している。
運営サイトに「あみのタジーのポッドキャスト冒険ブログ」(<http://amino-tajee.com/>)
「地球を救うタジー」(<http://caspeee.jp/channels/tajeeep/>)がある。